

3月の声を聞くと、人の気候も何となく春めいてきます。朝、パソコンのキーを叩いていると、鶯の声が向かいのハイキング・コースから聞こえてきました。

いよいよ、ハイカーの声が煩く聞こえてくる季節が近づいて来ました。各紙のコラムも春めいてきたようで、厭な「他人の不幸は蜜の味」ような経済問題だけでなく、「景観整備」「音の世界遺産」「長谷川等伯の美」など環境・文化に眼を向けられる余裕が生まれて来ているようです。

この一週間、藪野棕十「一握の砂」序を借りると、
「世の中には途法も無い仁（じん）もあるものぢや、今週の出来事を歌に詠めとある、人もあらうに此の俺にこの一週間の出来事を歌に詠めぢや。ああでも無い、かうでも無い、とひねつた末が此んなことに立至るのぢやらう。此の途法も無い処が即ち新の新たる極意かも知れん。

定めしひねくれた歌を詠んであるぢやらうと思ひながら手当り次第に繰り展げた処が、高きより飛び下りるとき心もて 豊田社長の米国議会公聴会出席 注目すべなきか 此ア面白い、ふん此の刹那の心を常住に持することが出来たら、至極ぢや。面白い処に気が着いたものぢや、面白く言ひまはしたものぢや。

非凡なる社長のごとくにふるまへる 後のさびしさは 何にかたぐへむ
いや斯ういふ事は自動車業界等の半世紀にしこたま有つた。此の厳しさを乗り越えられる会社こそが、所謂当節の成功者ぢや。

何処やらに沢山のマスコミが争ひて 足を引っ張り合うがごとし われも聞きたし
何にしる大混雑のおしあひへしあひで、公聴会の場に入るだけでも一難儀ぢやのに、やつとの思ひに入ったところで大概は空しいだけぢや。

何がなしにさびしくなれば 米国に出ていく社長男となりて 三月にもなれり
また、街を美しくしようと

とある日に 街を美しくしたくてならぬごとく 今日われ切に補助金を欲りせり」
更にまた、音の世界遺産を懐かしみ

腕拱みて このごろ思ふ 大いなるビートルズの音楽に小躍りせよと
更に更にまた、長谷川等伯の没後400年特別展の誘い

こころよく 我に絵を觀賞する余裕あれ それを仕遂げてこころ安らかにと思ふ
そして、

さうぢや、そんなことがある、斯ういふ様な想ひは、俺にもある。二三十年もかけはなれた此の著者と此の読者との間にすら共通の感ぢやから、定めし総ての人にもあるのぢやらう。然る処俺等聞及んだ昔から今までのコラムに、斯んな事をすなほに、ずばりと、大胆に率直にコラムの代わりに詠んだ歌といふものは一向に之れ無い。一寸開けて見てこれぢ

や、コラムよりもつと面白いのが此の集中に満ちて居る歌に違ひない。」

と。某生命会社が募集するサラリーマン川柳に毎年多数の応募があり、ベスト10を選ぶ投票も盛況とか、分るような気がします。

藪野棕十「一握の砂」序

世の中には途法も無い仁（じん）もあるものぢや、歌集の序を書けとある、人もあらうに此の俺に新派の歌集の序を書けとぢや。ああでも無い、かうでも無い、とひねつた末が此んなことに立至るのぢやらう。此の途法も無い処が即ち新の新たる極意かも知れん。

定めしひねくれた歌を詠んであるぢやらうと思ひながら手当り次第に繰り展げた処が、

高きより飛び下りるとき心もて この一生を 終るすべなきか

此ア面白い、ふん此の刹那の心を常住に持することが出来たら、至極ぢや。面白い処に気が着いたものぢや、面白く言ひまはしたものぢや。

非凡なる人のごとくにふるまへる 後のさびしさは 何にかたぐへむ

いや斯ういふ事は俺等の半生にしこたま有つた。此のさびしさを一生覚えずに過す人が、所謂当節の成功家ぢや。

何処やらに沢山の人が争ひて 鬪（くじ）引くごとし われも引きたし

何にしる大混雑のおしあひへしあひで、鬪引の場に入るだけでも一難儀ぢやのに、やつとの思ひに引いたところで大概は空鬪（からくじ）ぢや。

何がなしにさびしくなれば 出であるく男となりて 三月にもなれり

とある日に 酒をのみたくてならぬごとく 今日われ切に金を欲りせり

怒る時 かならずひとつ鉢を割り 九百九十九割りて死なまし

腕拱みて このごろ思ふ 大いなる敵目の前に躍り出でよと

目の前の菓子皿などを かりかりと噛みてみたくなりぬ もどかしきかな

鏡とり 能ふかぎりのさまさまの顔をしてみぬ 泣き飽きし時

こころよく 我にはたらく仕事あれ それを仕遂げて死なむと思ふ

よごれたる足袋穿く時の 気味わるき思ひに似たる 思出もあり

さうぢや、そんなことがある、斯ういふ様な想ひは、俺にもある。二三十年もかけはなれた此の著者と此の読者との間にすら共通の感ぢやから、定めし総ての人にもあるのぢやらう。然る処俺等聞及んだ昔から今までの歌に、斯んな事をすなほに、ずばりと、大胆に率直に詠んだ歌といふものは一向に之れ無い。一寸開けて見てこれぢや、もつと面白い歌が此の集中に満ちて居るに違ひない。そもそも、歌は人の心を種として言葉の手品を使ふものとのみ合点して居た拙者は、斯ういふ種も仕掛も無い誰にも承知の出来る歌も亦当節新発明に為つて居たかと、くれぐれも感心仕る。新派といふものを途法もないものと感じがひ致居りたる段、全く拙者のひねくれより起りたることと懺悔に及び候也。



< 藪野 椋十 (1872-1926) >

ジャーナリスト。本名、渋川柳次郎。筆名に、藪野椋十の他、渋川玄耳。佐賀県杵島郡西川登村小田志（現武雄市西川登町小田志）出身。東京法学院（現中央大学）卒業。



高等文官試験に合格し、福島県いわき市平区裁判所の裁判官。その後、陸軍法務官として熊本県の第六師団に勤務。

熊本時代には、夏目漱石の俳句結社紫溟吟社に参加。日露戦争で従軍法務官として満州に出征を経て、1907年(明治40年)東京朝日新聞へ入社。「辣腕社会部長」として斬新なアイデアを次々に出し、熊本時代の知己であった夏目漱石を社員として東京朝日新聞へ招く。

東京朝日新聞社会部長時、校正係として同社に在籍していた石川啄木の歌を称揚、処女歌集「一握の砂」刊行のきっかけを作った。

作品に『歌集山東に在り』『閑耳目』『玄耳小品』『故郷他郷』『三体古事記』『支那哀怨秘史』『支那閨房秘史』『渋川玄耳句集』『新訳平家物語』『従軍三年』など。

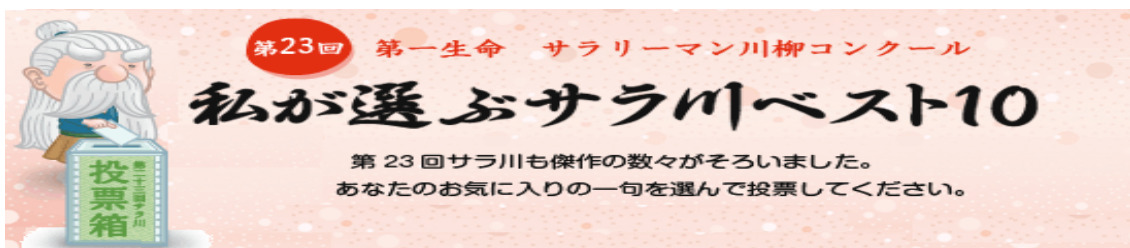
< サラリーマン川柳 >

第一生命の企画コンクール。

コンクールは1987年（発表は1988年）に始まり、以降毎年、募集選考が行われている。

内容は、好不景気や流行語など、その年の流行や世相を反映しながら、サラリーマンの悲哀や夫婦関係をユーモアや皮肉たっぷりに読んだものが多い。

日本漢字能力検定協会の『今年の漢字』、住友生命の『創作四字熟語』、東洋大学の『現代学生百人一首』、自由国民社の『新語・流行語大賞』と並んで、現代の世相を反映する一つの指標として使われることが多く、入選作が発表されると各メディアで取り上げられる。



春秋：「景観整備」(2/22)

「街を美しくしようなんて、けしからん」。40年ほど前、建設省（現国土交通省）の人にしかられたときの言葉を、田村明さんは生涯忘れなかった。民間企業から横浜市の職員に転じ、都市デザインの仕事を始めたばかりのころの話だ。

市の中心に高速道路をつくるという。国の案では街のど真ん中を高架が走る。道は地下に埋め、地上に公園を造りたいと頼んだとき冒頭のせりふが出た。景観にカネは使えない、東京の日本橋すら高架で覆ったのだと。何とか粘ってひっくり返した。その後も横浜市は景観整備に力を入れ、観光客の注目を高めた。

建設省が国土交通省となり、そこから観光庁が生まれた。海外からもどんどん観光客を呼ぼう。そんな構想だが、不況もあり思惑ほど数字は伸びない。そんな中で雪の北海道や昔ながらの街並みには、根強い人気があるという。人を引きつけるのは手つかずの自然、街の持つ個性と美しさ、生活文化の厚みらしい。

田村さんは後に大学で教鞭を執り著作を出版する傍ら、各地で街づくりの勉強会に足を運び、語り続けた。生活する人々が誇りと愛情を持って育てた景観でなければ訪れる人も感動しない、と田村さん。暮らして楽しく、愛着を持って、人も呼べる街づくりとは。難しい宿題を残し、この冬、83歳で生涯を閉じた。

< 田村明（1926-2010） >

地域政策プランナー。法政大学法学部名誉教授。東京大学工学部及び法学部卒業。

運輸省、大蔵省などからシンクタンク（日本生命）、都市コンサルタント（環境開発センター）を経て、横浜市役所技師になる。

横浜市役所時代は、高速道路の地下化、港北ニュータウン等の横浜市六大事業や、横浜スタジアム建設などを推進。その後、法政大学法学部教授に転任。

「まちづくり」という言葉を広めた。

著作に『都市を計画する』『環境計画論』『まちづくりの発想』『都市ヨコハマ物語』『江戸東京まちづくり物語』『美しい都市景観をつくるアーバンデザイン』など。



天声人語：「音の世界遺産」(2/24)

ビートルズの解散から40年になる。メンバー個々の活動が目立ち始めたのは1968年だった。別れを意識した4人は69年夏、有終の美を飾るべく最後のアルバム録音に臨む。「アビーロード」だ。

広報担当の著作によると、プロデューサーのジョージ・マーティンはこの傑作をこう評した。「A面はジョン、B面はポールと僕が望むようになった」。それは、ジョン・レノンに始まりポール・マッカートニーで終わった、とも語られるバンドの歴史に重なる。

先ごろ、アルバムが制作されたロンドン北部のスタジオが売りに出ると報じられた。ところが「売らないで」の声がわき起こり、所有者のEMIグループは売却を断念したと伝えられる。

ビートルズの曲の9割がここで録音された。4人が横断歩道を渡ってスタジオを去る有名なジャケット写真は、解散を暗示するものと話題になった。周りにはファンの姿が絶えない観光地である。資金難の会社は巨万のブランド価値に注目したが、「史跡」とあっては換金しづらい。

希代の感性が生み出した自在の曲想は、この場で形を整え、人類が永久に楽しめる「音の世界遺産」になった。4人の活動は実質7年。彼らの才能、友情、不和のすべてを見届けて、スタジオはなおそこにある。

ゆかりの地にも染みわたる伝説の重さ。最後のシングルにどうにか間に合ったビートルズ世代の端くれとしても、感慨深い。「どれだけ大切な資産なのか痛感した」という関係者の言を信じよう。願わくはレット・イット・ビー、あるがままに。

<ビートルズ(1962-1970)>

イギリス・リヴァプール出身のロックバンド。歴史上、全世界で最も広く知られ、最も成彼らの作り出した音楽は60年代以降のロック・ポップスシーンに多大な影響を与えた。

リズム・アンド・ブルースやロックンロールをルーツとしつつ、革新性と普遍性を併せ持った作品は、現代音楽の金字塔として揺ぎない地位を保っている。

外貨獲得に大きく貢献したことから、1965年にエリザベス2世から(当時、ロックバンドとしては異例の)MBE勲章が授与された。



レノン

マッカートニー

ハリスン

スター

編集手帳：「他人の不幸は蜜の味」(2/22)

他人の不幸は蜜の味。これによく似た意味の英語に「シャーデンフロイデ (Schadenfreude)」がある。元はドイツ語で、英語にはなかった言葉だ。

世界に誇るトヨタ車が、対応が後手に回ったこともあって米国でリコールに追い込まれた。厳しいトヨタ批判を繰り広げる米国の一部の報道ぶりを知り合いの英国人と話していたら、この言葉を教えてくれた。

米国の文化でもある自動車分野で、トップの座をニッポンに奪われ、米国人の深層心理が屈折していた時に、リコール問題が浮上した。日ごろ、心の奥底に沈殿していた気持ちが、一挙にはじけたのだろうか。

日本は国内総生産 (GDP) で過去 40 年余り、世界 2 位だったのが、今年は中国に追い抜かれそうだ。「1 人当たりの GDP に直せば途上国」から、「中国の人口は日本の 10 倍。日本を追い抜くのは当然でしょう」と、中国人の反応は様々だ。

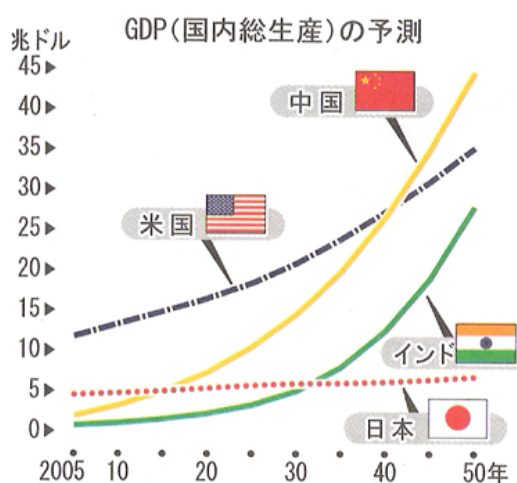
日中逆転が両国の人々の深層心理にどんな変化を呼び起こすのか。「シャーデンフロイデ」に相当する中国語の成語は「幸災樂禍 (シンツァイラーフォ)」である。日中ともに使う機会がないことを願いたいものだ。

日経：「中国 GDP、10 年にも日本超え 世界 2 位の経済大国へ」(1/21)

中国の国内総生産 (GDP) は 2010 年にも日本を上回り、世界第 2 の経済大国になる可能性が高まっている。21 日に明らかになった中国の 09 年の名目 GDP を同年の平均為替レートでドル換算すると 4 兆 9090 億ドル (約 459 兆 5000 億円) で、国際通貨基金 (IMF) の予想を基に内閣府が試算した日本の 09 年は 5 兆 950 億ドル。両者は急接近しており「日中逆転」の流れはほぼ決定的となりつつあるようだ。

IMF によると、1999 年の中国の GDP は 1 兆 830 億ドルで当時の日本の 4 分の 1 の規模にすぎなかった。

だが日本経済が低迷を続ける中、中国は年率 10% 前後の成長を続け、10 年で一気に差が縮小。08 年時点では、日本 4 兆 9237 億ドル、中国 4 兆 4016 億ドルだった。もっとも、中国の 1 人当たり GDP は日本の 10 分の 1 以下にとどまり、生活水準にはなお開きがある。



余録：「長谷川等伯の美」(2/24)

1590(天正18)年8月8日、当時の画壇に君臨していた狩野永徳は公家の勸修寺晴豊を訪ねた。豊臣秀吉の家臣・前田玄以が造営中の御所内の対屋(たいのや)という建物の障壁画制作を「はせ川と申者」に依頼したのをやめさせてほしいと頼み込んできたのだ。

「はせ川」とは当時頭角を現していた長谷川等伯だ。この時は永徳の横やりが通ったが、一介の地方絵師から身を起こした等伯の台頭ぶりがうかがえる。彼が秀吉から祥雲寺(しょううんじ)の障壁画を請け負い、画壇の頂点に躍り出たのはこの1年後だ。

その等伯も以前は狩野派に師事したという。最近、彼の作と確認された「花鳥図屏風(しょうぶ)」は狩野派の金碧画(きんぺきが)技法の修業をうかがわせる発見となった。祥雲寺の障壁画ではその技法を用いながらも狩野派と異なる優美で華麗な画風を樹立した。

今日では京都・智積院(ちしゃくいん)に残るその障壁画「楓図(かえです)」と「松に秋草図」の2国宝、また水墨画の最高峰とされる国宝「松林図屏風」を含む78点の画業の展覧である。東京・上野公園の東京国立博物館で始まった「没後400年 特別展・長谷川等伯」(3月22日まで)を見に行った。

狩野派との抗争に象徴される桃山文化の極彩色の世界で頂上を極めたちょうどその時期といわれる。等伯は朝もやにぼんやりかすむ松の林を墨だけで描いた。淡い光の中の空気の湿り気まで描かれていると評された「松林図屏風」は展覧の最後の区画にその1点だけ置かれていた。

そのころ等伯は後継ぎと期待を寄せた長男・久蔵を失っている。このことと関係するかどうか、すべては謎である。ただ見る者を包みこむ松林の静寂が400年の時を超えてそこにあった。

< 狩野永徳(1543-1590) >

安土桃山時代の絵師。狩野派の代表的な画人であり、日本美術史上もっとも著名な画人の1人。

狩野派の棟梁として織田信長、豊臣秀吉という天下人に仕え安土城、聚楽第、大坂城などの障壁画を制作した。永徳が力を振るったこれらの代表的な事績は建物とともに滅びてしまったものが多く、真筆とされる現存作品は比較的少ない。永徳といえば『唐獅子図』や『檜図』のような雄大なスケールの豪快な作品(大画)がよく知られるが、細部を緻密に描写した「細画」もよくしたとされ上杉本『洛中洛外図』は、細密画の秀作として知られている。

その他『聚光院障壁画』『南禅寺大方丈障壁画』『檜図屏風(国宝)』『許由巢父図(重文)』『仙人高士図屏風(重文)』『洛外名所遊楽図屏風』『花鳥図押絵貼屏風 六曲一双』など。

< 勸修寺晴豊 (1544-1603) >

安土桃山時代の公家。権大納言。勸修寺家の14代当主。

武家伝奏を務め、織田信長、豊臣秀吉等と交流があり、石山合戦の際には勅使として信長と本願寺の講和に関与。

その著書『晴豊公記(晴豊記、日々記)』は信長や本能寺の変に関する記述も多く、史料価値が高い一級史料とされている。

本能寺の変に関しては、前日の天正10年(1582年)6月1日、信長の上洛を祝うための勅使として本能寺を訪れ信長と会見。変直後に見聞した二条御所等の状況を記録している。

山崎の合戦後、明智光秀の娘を保護したとされる。

< 前田玄以 (1539-1602) >

戦国時代から安土桃山時代にかけての僧侶・武将・大名。豊臣政権における五奉行の1人。丹波亀山藩の初代藩主。

尾張小松原寺、比叡山延暦寺の僧侶であったが、後に、織田信長に招聘され、信長の命令でその嫡男・織田信忠付の家臣となる。天正10年(1582年)6月の本能寺の変に際しては、三法師(後の織田秀信)を連れて京都から脱出して美濃岐阜城、尾張清洲城へと逃れた。

思慮深く私欲の無い性格だったことから、信長・信忠父子からは信任が厚かったとされ、関ヶ原の戦いでは最後まで戦場には出陣せず、丹波亀山5万石の本領を安堵される。

< 長谷川等伯 (1539-1610) >

安土桃山時代から江戸時代初期に活躍した桃山時代を代表する絵師。

能登国七尾(現・石川県七尾市)生まれ。

自らも熱心な信徒であった日蓮宗関係の仏画や肖像画などを描いていたが、30歳過ぎた頃、上洛、郷里の本延寺の本山本法寺に入り、狩野派の様式に学びつつも、千利休ら茶人たちから中国絵画の知識を吸収し独自の画風を確立。

天正18年(1590年)注文を得た仙洞御所障壁画がの妨害工作で取り消されるなど、狩野永徳との確執の逸話も多い。

また、中国・宋元の風を承けた水墨の作品も多く描き、牧谿の影響が強いとされる。等伯の残した作品の多くは、重要文化財に指定されている。

作品に『鬼子母神十羅刹女図』『釈迦・多宝仏図』『武田信玄像』『大徳寺山門天井画・柱絵』『旧三玄院襖絵』『大徳寺山門天井画・柱絵』『南禅寺天授庵禅機図』『龍虎図屏風』など。



豊暗寺修勤

徳永野将
(京都府)



伯等山谷長
(石川県)

伯等川谷長と徳永野将の猫見口山



以前田

